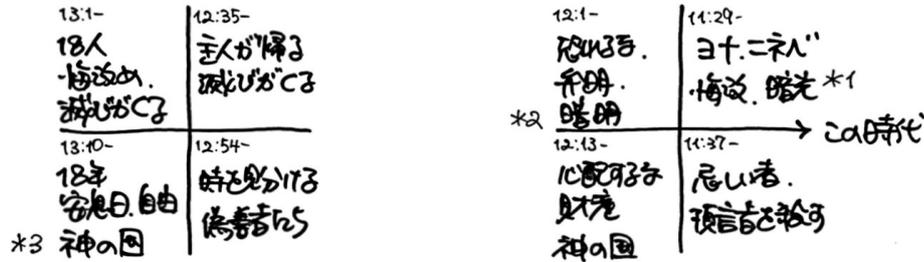




ルカ福音書11:29-13:21

ルカ 11:29-13:21

悔改の時、光が来る。
偽善が明かすに。
まぼろしの日、滅びの日



? 光暗 *1 11:29-, 暗明 *2 12:1-, 神の国はかし種 *3 13:10- 前信のつがいは?

*1 ヨナ、ソロモンよりまさった者、しるしを見たい

*2 パリサイ人の偽善は明らかになる、弁明の時に恐れ子

*3 18年安息日、いせのみゆき、光-神の国は、可なり明らかになる

異邦人を照らす啓示の光

み民は、エラシの光

ルカ 2:32 エラシ

ルカ福音書11章29節から13章21節のところを分析しています。8段落に分かれています。このアスタリスクの*1(11:29-)、*2(12:1-)、*3(13:10-)。この箇所が文脈の中で、どういう位置づけなのかがよく分からなかったのをそれを見ました。

まず最初の11章29節からのところで「ヨナのしるしをニネベの人が見た」それと「ソロモンの知恵を聞くために南の女王が来ました、ソロモンよりもまさった者、ヨナよりもまさった者がいる、この時代の人、この時代のために」と言っているのですが、その後「誰もあかりをつけてから穴倉や柀の下に置く者はいません、光が見えるためです」という11章33節から36節までがあります。これは何の話をしてるんだろうと。11章37節に「イエスが話を終えられる」とありますので、このヨナとソロモンの話の説明になっているはずなのですが、よく分からない。

似ている話で、12章1章からのところに「パリサイ人のパン種に気をつけなさい。偽善に気をつけなさい。明らかにされます。」という話をした後、「そこで私の友であるあなたがたに言います」というこの恐れてはいけないという話は、このパリサイ人のパン種、偽善に気をつけなさいという話と繋がっている1つの話なのなのですが、この話のつながりがよく分からない。

もう一つ、13章10節からの段落に「18年もの病の霊に憑かれた者が安息日に癒されたのを見て会堂管理者が憤る」というところ。それに対して「安息日に自由を与えるのはいけないのか」という答えなのなのですが、その後「神の国は何に似ているでしょう、からし種のようなものです、パン種のようなものです」という風に、そこで言われたと言っている割に、これは何だろうと。この話とどういう、この奇跡とどういう

関わりのあるものなんだろうということで、この3箇所が特にこの段を落分けた時に、1つの話の中でセットだと言われていることは分かるのですが、その前後との繋がりがわからなかったの、それを考えたということです。

まず最初の11章のところは、「しるしを見ているはずなのに見えていない」ということです。このしるしを光としてのしるし、光が来たのに光を見ていないということです。盲目であるということだと思えるのですが、ここに「見なさい、見なさい」と書いてあるのは、特に見ることを強調しているかどうか分からないのですが、「見なさい、そのしるしを見なさい」ということと、「しるしとしての光」という繋がりがあのかなと思います。しるしを見ていないということですね。

2番目のパリサイ人のパン種の話のところに続いている「私の友であるあなたがたに言います、恐れてはいけません」というところは、よく見ていくと、その恐れなければいけない話は、「からだを殺してもそれ以上何もできない人間を恐れるな」と。「恐れなければならない方を恐れなさい」、「人の子を認めるか認めないか、私を人の前で知ってる知らないと言うか」というこの証言のところですね。「人の子をそしることをばを使う者があっても赦されるけど聖霊を汚す者は赦されない」。聖霊が教えてくれるのは弁明する時ですね。捕らえられていた時に何を話すかを心配するなというようなことを言っていますが、この「私の友である」というところからもわかるように、アブラハムは神の友と呼ばれましたけれど、預言者ですね。前の段落にあります。「この預言者たちを殺した、律法学者パリサイ人は忌まわしいものだ、預言者たちを殺す、預言者の言葉に聞かない」預言者の言葉に聞かないだけではなくて、その預言の言葉を嫌っているので、預言者を殺すという送られた遣わされた者、遣わされた者を偽善者たちは殺そうとする。この偽善者たちの言っていることは明らかにされますよと言って、その偽善者たちから攻撃される弟子たち、私の友である弟子たちは必ず守られますと。弁明の時に恐れるな。偽善は必ず明らかにされる。偽善者は裁かれたいと思っている。偽善は必ず暴かれますということなので、恐れなくて弁明する。私を知っているということを大胆に語るようにと言われてるのが、この2番目。

3番目のところ(13:10-)で、18年の病の話があります。この奇跡を見た時に、奇跡を見てこの偽善者たちに対して、反対している人たちに話した時に、反対していた人たちは皆恥じる。イエスのなさったすべての輝かしいみわざ、栄光を喜ぶ。栄光のしるしを喜ぶということですね。というふうにとみると、この18年間安息日の癒しのみわざの栄光、この栄光は、この偽善者たちの偽善に対しての勝利なんですよ。神の国は必ず成長する。神の国は必ず小さいもののように見えるけれども全てにわたる。偽善は必ず明らかになる。キリストの光は必ず照らされるというようなことをこのパン種とからし種のところで言っているんであろうと。それは他の2つ(*1、*2)とも一致してるかなということですね。

ルカの2章32節にあるシメオンの言葉の中に、「異邦人を照らす啓示の光、御民イスラエルの栄光である」とあります。異邦人を照らす啓示の光。ヨナも南の女王も異邦人ですね。「異邦人を照らす啓示の光」、この「光」という言葉は同じです。ニネベのところに出ている「あなたがたのうちの光」、これは啓示の光の光と一緒にですね。18年の間の病の者の癒しの時の「輝かしいみわざを喜んだ」。この「輝かしい」は栄光につながる言葉のようですので、御民イスラエルの栄光であると。この栄光の光が来た。悔い改めなさい、光が来た。偽善が明るみになるその裁きの日、滅びの日が来ますよということをいつも預言者たちが語る言葉ですね。神様の裁きの日が来る。だから悔い改めなさいと言われてその光が来て、この偽善と戦っているというところが、このよく関係が分からない段落を比べることによっても明らかになるのかなということです。